

# 学校法人濱名学院平成 25（2013）年度事業報告

## 1. 法人の概要等

### 1) 建学の精神

本学院は、幼児教育の重要性を強く認識していた創設者、濱名ミサヲが、第二次世界大戦直後の混乱期に、地元尼崎市の公私からの要請を受け、私財を投入し開設した「愛の園幼稚園」を出発点としています。

昭和 25(1950)年に兵庫県尼崎市に設立された同園は、人間愛を育む学園であることをめざし、子どもたちには他者に対する思いやりを、教職員には教育愛あふれる学園づくりを求め、その建学の精神である「以愛為園(愛を以って園と為す)」は、学院全体の建学の精神として継承されています。

### 2) 学校法人の沿革

昭和 25 年 5 月	創設者、濱名ミサヲは「以愛為園」即ち「愛を以て園と為す」の精神から「愛の園幼稚園」を設立
昭和 28 年 6 月	臨時尼崎幼稚園教員養成所を愛の園幼稚園内に開設
昭和 30 年 12 月	学校法人濱名学院を設立
昭和 32 年 3 月	尼崎幼稚園教員養成所を関西女学院と改称
昭和 51 年 4 月	専修学校制度発足、関西女学院保育専門学校の認可を受ける
昭和 56 年 4 月	男性保育者を受け入れるため、校名を関西保育専門学校に変更
昭和 59 年 4 月	関西保育専門学校に社会福祉科を開設
昭和 62 年 4 月	関西女学院短期大学（経営学科）を開学
昭和 63 年 4 月	関西保育専門学校に介護福祉科を開設
平成 3 年 4 月	関西保育専門学校を関西保育福祉専門学校と改称
平成 5 年 4 月	関西女学院短期大学コミュニケーション学科を開設
平成 10 年 4 月	関西国際大学（経営学部）を開学
平成 10 年 4 月	関西国際大学の開学に伴い、関西女学院短期大学の校名を関西国際大学短期大学部に変更
平成 13 年 3 月	関西国際大学に人間学部（人間行動学科、英語コミュニケーション学科）を開設
平成 16 年 4 月	関西国際大学経営学部経営学科を経営学部総合ビジネス学科に変更
平成 17 年 4 月	関西国際大学大学院人間行動学研究科人間行動学専攻を開設

- 平成 18 年 4 月 関西国際大学人間学部人間行動学科を改組し、人間心理・教育福祉の 2 学科を設置
- 平成 19 年 4 月 関西国際大学人間学部及び経営学部を改組し、教育学部教育福祉学科、教育学部英語教育学科、人間科学部人間心理学科、人間科学部ビジネス行動学科の 2 学部 2 学科を設置
- 平成 21 年 4 月 関西国際大学教育学部が尼崎キャンパスへ移転
- 平成 23 年 4 月 関西国際大学人間科学部経営学科を開設
- 平成 24 年 9 月 関西国際大学人間学部及び経営学部を廃止
- 平成 25 年 4 月 関西国際大学保健医療学部（看護学科）を開設

### 3) 設置学校等

#### 関西国際大学

学部・研究科名		学科・専攻名	
学部	人間科学部	ビジネス行動学科	平成 19 年度開設 平成 23 年度から募集停止
		人間心理学科	平成 19 年度開設
		経営学科	平成 23 年度開設
	教育学部	教育福祉学科	平成 19 年度開設
		英語教育学科	平成 19 年度開設
	保健医療学部	看護学科	平成 25 年度開設
大学院	人間行動学研究科	人間行動学専攻	平成 17 年度開設

#### 関西保育福祉専門学校

昭和 28（1953）年に「難波愛の園幼稚園」に併設された「臨時尼崎幼稚園教員養成所」を母体とする「関西保育福祉専門学校」は、創設以来 60 年の歴史をもつ「保育科」の他に「介護福祉科」を併せ持ち、保育・福祉両分野の担い手となる人材の養成に努めています。

#### 難波愛の園幼稚園

昭和 25（1950）年 5 月の創設以来、「愛情こそが教育の基本であり、保育の原点である」という精神に基づき、園児教育に 63 年間の歴史を持つ「難波愛の園幼稚園」は、その実績が近隣から高く評価されています。

#### 4) 各学校等の学生数の状況

平成 25 (2013) 年 5 月 1 日現在 (単位: 人)

学部・研究科名		入学定員数	収容定員数	現員数	備考
関西国際大学	人間科学部	225	1,000	853	
	教育学部	200	800	859	
	保健医療学部	80	80	104	
	大学 合計	505	1880	1816	
関西国際大学 大学院	人間行動学研究科	10	20	20	
関西保育福祉 専門学校	保育科	140	280	281	
	介護福祉科	40	80	87	
	専門学校合計	180	360	368	
難波愛の園幼稚園				308	

#### 5) 役員に関する事項

理事数 9 名 (定員 9 名~10 名)

監事数 2 名 (定員 2 名)

#### 6) 評議員に関する事項

評議員数 21 名 (定員 20 名~22 名)

#### 7) 教職員の概要

平成 25 (2013) 年 5 月 1 日現在 (単位: 人)

	本 部	関西国際大学	関西保育福祉専門学校	難波愛の園幼稚園	計
専任教員	—	94	15	19	128
専任職員	7	65	8	2	82

## 2. 事業の概要

### ◇ 関西国際大学

#### 1) 教育目標

関西国際大学は、学院の建学の精神である「以愛為園」を受け、これを大学教育の中で活かすため、①「自律できる力」②「社会に貢献できる力」③「心豊かな世界市民としての資質」の3つを、教育理念として定めています。さら

に、教育理念を具現化するために、学生の到達目標・学びの行動指針として『KUIS学修ベンチマーク』を制定しました。そこには、教育理念で定められている3つの能力・資質に加え、大学で修得すべき汎用的能力である④「問題解決能力」⑤「コミュニケーション能力」の5つの大項目と中項目が明示されています。学生達がKUIS学修ベンチマークの達成と⑥「学部・学科ごとの専門的知識・技術」の学修を果たし、人間愛と隣人愛にもとづいて社会に貢献できる人間の育成を教育目標としています。

## 2) 学生数等

平成 25 (2013) 年度入学志願状況

	人間科学部	教育学部	保健医療学部	計
入学定員	225	200	80	505
志願者	348	475	356	1,179
合格者	292	314	130	736
入学者	198	231	104	533

## 3) 保健医療学部の開設

保健医療学部看護学科が、平成 25 (2013) 年 4 月に開設されました。

新しい分野の教員、スタッフと、看護師を目指す学生を多数迎え、看護職者の需要の高まりに応えるための第一歩を踏み出しました。

## 4) 組織体制の強化

### ① 事務組織の改革

ツインキャンパス体制が発足して4年が経過しましたが、現状の問題点と不備を是正し、学部の増加等による環境の変化に対応できる体制を整えるとともに組織上の責任者とその権限を明確にし、課を超えた協力体制の構築と情報の共有を図るため、平成26 (2014) 年度から、法人事務局と大学事務局の統合及び3部1室による担当部制とすることを決定しました。

### ② 新同窓会組織との連携体制強化

関西女学院短期大学において設立された同窓会組織「緑風会」に加え、平成 24 (2012) 年 12 月、新たに関西国際大学卒業生のみから構成される同窓会組織が設立されました。新同窓会が安定した組織運営を行えるよう、在学生への同窓会の認知度を高めるとともに、適切な支援を行いました。

## 5) 外部資金の獲得

私立大学経常費補助金一般補助の獲得に加え、多くの特別補助金申請を行いました。その結果、私立大学教育研究活性化設備整備資事業タイプ 1～3 で 51,822 千円、同 I C T 補助 31,217 千円、先導的の大学改革推進委託事業 4,200 千円、未来経営戦略推進経費 8,000 千円を獲得しました。

## 6) 施設設備の整備

### ① 補助金の活用による設備の充実

前項に記載した補助金を活用し、発展的な大学間連携事業推進のための遠隔システム機能等の設備整備、学習環境の整備を図りました。主な整備事業は以下のとおりです。

- ・ 出欠管理システム
- ・ 大講義室遠隔講義用システム
- ・ プロジェクター、映像機器、音響機器
- ・ ラーニングコモンズ、交流プラザ整備

### ② 尼崎キャンパス教育系システムリプレイス

平成 24 (2012) 年度の三木キャンパス教育系基幹システムのリプレイスに続き、今年度は尼崎キャンパス教育系及び事務系システムリプレイスを完了しました。特に、ワイヤレスプレゼンツールをベースとした情報教室の導入など、I C T 環境が整備されました。

### ③ 人工芝グラウンド (三木キャンパス)

三木キャンパスの人工芝グラウンドは、設置後 9 年が経過し、一部損傷も見られたことから、今年度、下にアスファルトを敷く工法により人工芝の張替えを行いました。加えて、グラウンド周辺の、従来アスファルトであった部分にも人工芝を敷き詰めたことにより、これまで以上に安全性を確保した環境でプレーできるようになりました。

## 7) 教育・研究活動のさらなる強化

本学の教育改革、体験学習機会の提供、日々の教育活動への様々な取り組みを通じて、教育・研究活動の充実強化を図りました。それらの取り組みの達成状況については、効果測定等を行い、次年度の取り組みに反映させることとしています。

### ① 教育活動の点検 (教学マネジメント)

現在、本学で制定している3つの教育方針 (ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー) に加え、アセスメントポリシーに関

しても、定期的にその内容について検証し、教育方針を見直す過程において、教育の情報公開を念頭においた評価システムの構築を進めています。

また、レベル4の新設など、ベンチマークの評価尺度の改定を昨年度に引き続き実施しました。

#### ② 教室外プログラムのためのルーブリック開発

教育開発委員会において、多様性理解、チームワーク及びポートフォリオの評価に活用できる統合学習ルーブリックが開発されました。これらを使用することで、教室外プログラムへのルーブリックの活用が可能となりました。

#### ③ 科目ナンバリングによるカリキュラム構造の検証

学位プログラムとしてのカリキュラムの位置づけを明確にするとともに、科目ナンバリングの制度が整備され、次年度から、開講科目一覧にも科目ナンバリングが記載されることとなりました。これにより、学生に対して科目履修の目的がより明確に示されるようになりました。

#### ④ グローバル人材の育成

グローバルスタディ事業では、従来の中国、韓国等に加え、タイ、ベトナム、カンボジア等東南アジアを中心に、更なるプログラムの充実を図りました。

また、教育効果をあげるため、協定大学との連携を強化し、事前・事後学習を徹底し、参加学生の学修成果について、報告会やWebサイト等による発表を行いました。

学習成果に関しては、現地学生との交流が濃密であったプログラムにおいて、ベンチマークの向上が見られたという効果が現れており、今後の活動に活かします。

また、海外に学生を送り出すだけでなく、本学の外国人留学生の歓迎会、送別会、日本文化体験等、日本人学生との交流の場を広げ、両者が共に学ぶ機会を設けることによって、国際感覚を身につけたグローバル人材の育成を図りました。

#### ⑤ キャリア教育の推進

中教審での議論を経て、キャリア教育が学士課程教育の一環として明確に位置づけられたことを受けて、自身の適性を考え、自らのライフプランを立て、人生における就職や職業に対する意識の涵養をはかるべく、「なりたい自分シート」の活用等、低学年からのキャリア教育を推進しました。

#### ⑥ 体験型学修プログラムの充実

全員参加である1年生のグローバルスタディに加え、2年生以上の学生のインターンシップ、サービスラーニングをコミュニティスタディとして整理し、選択必修化しました。グローバルスタディと併せて、全学的に体験型学修の学生参加を勧める制度を充実させました。

## 8) 学生支援事業

### ① 学生のリテンション向上

学生支援型 I R データの活用や、初年次初期（4,5月）段階及びリフレクションディ後のアドバイザーとの個人面談を充実させることにより、問題を抱える学生の早期発見を図るとともに、教員のアドバイザー機能を再確認し、教員と事務部局との連携を強め、全学的な指導体制を充実していくことで、学生のリテンションの向上を図りました。

### ② 課外活動への対応

クラブとサークルのカテゴリーの再編を行い、活動内容や、運営についてのチェックを実質化しました。

三木キャンパスでは、サッカーグラウンドの人工芝張替えが完了し、平成26（2014）年度の春期リーグ開幕戦で使用されることになりました。

### ③ 就職活動支援体制強化

学生に対する就職活動の支援において、教員も積極的に参画するために、進学も含めた就職活動の支援・指導を所掌する就職委員会を新たに設置し、体制強化を図りました。

## 9) 学生募集活動の充実

### ① インターネット関連広報と告知広告の充実

主要な進学専用のウェブサイト（リクリート「進学ネット」、J S コーポレーション「日本の学校」、進研アド「マナビジョン」の内容を見直し、新たに旺文社の「パスナビ」）に本学の情報を掲載し、ファースト・コンタクトの機会の拡大に取り組みました。

また、本学の公式ウェブサイトもリニューアルするとともに、8割を超える高校生が使用しているスマートフォンからも本学のHPが検索できるよう本学アプリを制作し、情報の公開及び内容の充実を図りました。

大学の告知広告としては、従前からの明石、緑が丘、新開地、三宮の駅看板の継続に加え、新たに神戸電鉄、北神急行のドア上、ドア横ポスターを実施し、認知度の向上を図ります。

## ② 留学生募集関連

「中期国際交流戦略策定プロジェクト」で掲げられていた、留学生の受入シェア10%を達成するために、引き続き留学生の3年次編入について、修業年数の見直しを継続して進め、協定大学に向けて、質保証を担保した受入れが実現できるように準備するとともに、国内でも、募集を強化するプロジェクトを立ち上げ、日本語学校の訪問強化、留学生対象の説明会への積極的参加などを実施しました。

## 10) 研究支援事業

### ① 研究紀要の充実

研究紀要における体裁の統一と内容の充実に向け、「研究紀要投稿規程」を改定し、執筆要領を大幅に改訂するとともに、紀要刊行スケジュールを明確化しました。

### ② 研究所プロジェクトの活性化および実績のフォロー

各研究所プロジェクトの実施について、その進捗状況を確認し、成果の発表や公表に関するフォローを行いました。

## 11) 社会連携エクステンション活動

### ① 地域社会との交流・貢献

大学の知的資源やノウハウを、公開講座・講師派遣・シンポジウム等の形で地域社会に還元し、貢献を行いました。当該活動は、三木キャンパスの大学祭（あじあん祭）の中核プログラムとして定着しており、本年度も、ベースボールトライアウトや親子ふれあいテニスのほか、ヴィッセル神戸応援プロジェクト企画のアトラクションなどを開催し、多くの親子が参加されました。

また、三木市、尼崎市を中心に講師派遣や委員委嘱についても積極的に受け入れ、平成25（2013）年度は講師派遣331件、委員委嘱86件となりました。

### ② 高大連携の推進

尼崎キャンパスにおいて、地域全体の教育力の向上を図るために、尼崎市内の高校から特別聴講生の受け入れや大学教員による出張講義を行いました。

協定先の県立尼崎高校 40 名が教育学部の授業に参加しました。

### ③ 子育て支援への取り組み

平成 21（2009）年に開設した子育て支援センターは、地域に開かれたセンターとして、親子の仲間作りや相談の場を提供するほか、教員等の専門家が



先進の研究成果を学ぶ公開講座等を実施しており、発達障害等の専門相談のほか、「応用行動分析学に基づく自閉症・ADHD・アスペルガー障害児指導法の最前線」は専門性の高い講座として、2 百人を超える参加がありました。現職教員や保育士の学びの場を提供しています。

### 3. 財務の状況（学校法人濱名学院）

#### 1) 資金収支計算書 自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

(単位：円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
資 金 収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,641,495,378	2,626,021,925	15,473,453
	手数料収入	40,898,109	41,570,230	△ 672,121
	寄付金収入	14,510,000	15,428,995	△ 918,995
	補助金収入	491,821,740	544,747,706	△ 52,925,966
	国庫補助金収入	378,744,000	421,674,000	△ 42,930,000
	県補助金収入	63,756,690	74,092,396	△ 10,335,706
	市補助金収入等	49,321,050	48,981,310	339,740
	資産運用収入	29,804,400	56,980,046	△ 27,175,646
	資産売却収入	0	140,854,700	△ 140,854,700
	事業収入	173,605,500	174,062,660	△ 457,160
	雑収入	22,606,355	48,509,815	△ 25,903,460
	前受金収入	569,375,000	576,603,550	△ 7,228,550
	その他の収入	1,106,334,045	1,439,578,135	△ 333,244,090
	資金収入調整勘定	△ 715,215,750	△ 802,735,290	87,519,540
	前年度繰越支払資金	1,043,482,110	1,043,482,110	—
	収入の部合計	5,418,716,887	5,905,104,582	△ 486,387,695
資 金 支 出 の 部	人件費支出	1,889,542,058	1,915,932,267	△ 26,390,209
	教育研究経費支出	705,584,510	618,086,894	87,497,616
	管理経費支出	494,136,198	489,366,602	4,769,596
	借入金等利息支出	21,320,009	21,241,844	78,165
	借入金等返済支出	142,104,000	142,104,000	0
	施設関係支出	80,940,000	72,111,038	8,828,962
	設備関係支出	276,696,973	281,501,079	△ 4,804,106
	資産運用支出	0	226,498,896	△ 226,498,896
	その他の支出	823,350,932	877,168,341	△ 53,817,409
	資金支出調整勘定	△ 242,057,429	△ 367,405,016	125,347,587
	次年度繰越支払資金	1,227,099,636	1,628,498,637	△ 401,399,001
支出の部合計	5,418,716,887	5,905,104,582	△ 486,387,695	

## 2) 消費収支計算書

自平成 25 年 4 月 1 日 至平成 26 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
消費 収入 の 部	帰属			
	学生生徒等納付金	2,641,495,378	2,626,021,925	15,473,453
	手数料	40,898,109	41,570,230	△ 672,121
	寄付金	14,510,000	20,964,560	△ 6,454,560
	補助金	491,821,740	544,747,706	△ 52,925,966
	国庫補助金	378,744,000	421,674,000	△ 42,930,000
	県補助金	63,756,690	74,092,396	△ 10,335,706
	市補助金等	49,321,050	48,981,310	339,740
	資産運用収入	29,804,400	56,980,046	△ 27,175,646
	資産売却差額	0	11,127,175	△ 11,127,175
	事業収入	173,605,500	174,062,660	△ 457,160
	雑収入	22,606,355	48,522,815	△ 25,916,460
	合 計 (C)	3,414,741,482	3,523,997,117	△ 109,255,635
	基本金組入額	△ 588,510,973	△ 320,722,043	△ 267,788,930
消費収入 (A)	2,826,230,509	3,203,275,074	△ 377,044,565	
消費 支出 の 部	人件費	1,889,542,058	1,940,489,067	△ 50,947,009
	教育研究経費	1,074,958,469	1,075,691,006	△ 732,537
	うち減価償却額	369,373,959	402,964,711	△ 33,590,752
	管理経費	524,713,638	525,418,931	△ 705,293
	うち減価償却額	30,577,440	36,052,329	△ 5,474,889
	借入金等利息	21,320,009	21,241,844	78,165
	資産処分差額	7,623,000	9,369,060	△ 1,746,060
	その他	0	0	0
	消費支出 (B)	3,518,157,174	3,572,209,908	△ 54,052,734
	当年度消費収支差額 (A)-(B)	△ 691,926,665	△ 368,934,834	—
前年度繰越消費収支差額	△ 3,763,209,743	△ 3,763,209,743	—	
翌年度繰越消費収支差額	△ 4,455,136,408	△ 4,132,144,577	—	
帰属収支差額 (C)-(B)	△ 103,415,692	△ 48,212,791	—	

### 3) 貸借対照表

平成 26 年 3 月 31 日

年 度	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
<b>固定資産</b>	14,212,938,872	14,336,520,285	△ 123,581,413
有形固定資産	12,887,673,804	12,968,078,271	△ 80,404,467
土地	5,116,993,253	5,116,993,253	0
建物	6,508,282,451	6,752,028,478	△ 243,746,027
図書	585,156,196	560,470,061	24,686,135
その他の有形固定資産	677,241,904	538,586,479	138,655,425
その他の固定資産	1,325,265,068	1,368,442,014	△ 43,176,946
<b>流動資産</b>	1,819,602,542	1,828,520,069	△ 8,917,527
現金預金	1,628,498,637	1,043,482,110	585,016,527
その他の流動資産	191,103,905	785,037,959	△ 593,934,054
<b>資産の部合計</b>	<b>16,032,541,414</b>	<b>16,165,040,354</b>	<b>△ 132,498,940</b>
<b>固定負債</b>	1,471,851,333	1,557,783,621	△ 85,932,288
長期借入金	1,085,306,000	1,227,410,000	△ 142,104,000
退職給与引当金	259,461,586	234,904,786	24,556,800
長期未払金	127,083,747	95,468,835	31,614,912
<b>流動負債</b>	1,068,637,497	1,066,991,358	1,646,139
1年以内返済予定借入金	142,104,000	142,104,000	0
未払金	286,630,880	219,390,139	67,240,741
前受金	576,543,550	643,586,750	△ 67,043,200
預り金	63,359,067	61,910,469	1,448,598
<b>負債の部合計</b>	<b>2,540,488,830</b>	<b>2,624,774,979</b>	<b>△ 84,286,149</b>
第1号基本金	16,511,038,447	16,190,316,404	320,722,043
第2号基本金	647,158,714	647,158,714	0
第3号基本金	256,000,000	256,000,000	0
第4号基本金	210,000,000	210,000,000	0
<b>基本金の部合計</b>	<b>17,624,197,161</b>	<b>17,303,475,118</b>	<b>320,722,043</b>
翌年度繰越消費支出超過額	4,132,144,577	3,763,209,743	368,934,834
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 4,132,144,577</b>	<b>△ 3,763,209,743</b>	<b>△ 368,934,834</b>
<b>負債の部・基本金の部 及び 消費収支差額の部合計</b>	<b>16,032,541,414</b>	<b>16,165,040,354</b>	<b>△ 132,498,940</b>

4) 財産目録 (平成 26 (2014) 年 3 月 31 日)

<b>I 資産総額</b>	<b>16,032,541,414 円</b>
1 基本財産	14,212,938,872 円
土地	90,896 平方メートル 5,116,993,253 円
建物	46,002 平方メートル 6,508,282,451 円
構築物	149 点 156,190,162 円
図書	148,007 冊 585,156,196 円
教具・校具	13,713 点 470,819,714 円
備品	447 点 44,401,134 円
車輛	5,830,894 円
第 2 号基本金引当特定資産	648,000,000 円
第 3 号基本金引当特定資産	256,000,000 円
減価償却引当特定資産	406,544,376 円
借地権	5,500,000 円
長期貸付金 (奨学金)	3,131,200 円
保証金	4,743,500 円
その他	1,345,992 円
2 運用財産	1,819,602,542 円
現金・預金	1,628,498,637 円
有価証券	3,075,116 円
未収入金	159,088,540 円
短期貸付金	218,000 円
前払金	9,198,803 円
貯蔵品	823,006 円
立替金	558,460 円
預け金	18,141,980 円
<b>II 負債総額</b>	<b>2,540,510,320 円</b>
1 固定負債	1,471,851,333 円
長期借入金	1,085,306,000 円
退職給与引当金	259,461,586 円
長期未払金	127,083,747 円
2 流動負債	1,068,637,497 円
短期借入金	142,104,000 円
未払金	286,630,880 円
前受金	576,543,550 円
預り金	63,359,067 円
<b>正味財産 (資産総額—負債総額)</b>	<b>13,492,052,584 円</b>

## 5) 決算の概要

平成 25 (2013) 年度の帰属収支差額は 48 百万円赤字 (予算比 55 百万円プラス) となりました。

新 (保健医療) 学部が開設された関西国際大学において学生数が増加したことにより、学納金収入が 219 百万円増加、補助金収入も特別補助金の採択等により、国庫補助金は 119 百万円増加しました。今年度の帰属収入は昨年比 241 百万円減少しましたが、昨年度は三木市から 476 百万円の補助を受けたことと、室内練習場の現物寄附 124 百万円の臨時的な収入 (合計 600 百万円) 等があったため、それら臨時的なものを除いた経常的な帰属収入は昨年比 359 百万円増加となっています。

消費支出では、資産処分 (除却等) を除く経常的な支出は、人件費 (主に保健医療学部の教員関連) の増加 187 百万円、同学部関連の貯蔵品 (流動資産) のうち、小額のものや、使用されたもの約 54 百万円を消耗品に振替えたこと、台風による浸水被害修繕 17 百万円、看護学実習棟建築に伴う減価償却費の増加 43 百万円と保健医療学部開設に伴う経費増等から、前年度比 382 百万円増加しました。また、予算比では貯蔵品の振替額を予算計上していなかったため、その同額の 54 百万円増加しました。

施設設備面は、サッカーグラウンドの人工芝改修工事 57 百万円、大学 I C T 環境の整備リース : 128 百万円、私立大学教育研究活性化整備事業関連 87 百万円 (うち補助金収入 68 百万円) 専門学校音楽教室等整備 10 百万円、幼稚園トイレ改修 3 百万円、その他の設備や図書の整備 25 百万円等により 368 百万円増加しました。

基本金は、除却した物を差引いた固定資産の増加額 220 百万円の内未払金 41 百万円を除く 179 百万円と借入金の返済 142 百万円の合計額 321 百万円を 1 号基本金に組み入れました。これにより、消費支出差額はマイナス 369 百万円となりました。

資金収支においては、未収計上していた三木市及び企業団からの補助金の入金 (計 510 百万円) が入金されたこと等もあり、翌年度繰越支払資金は前年度比 585 百万円のプラスとなり、1,628 百万円となりました。

#### 4. 監事の監査報告書

平成 26 年 5 月 12 日

学校法人濱名学院理事会・評議員会御中

学校法人濱名学院

監事 中出慎次郎

監事 杉原左右一

私たちは、学校法人濱名学院の監事として、私立学校法第 37 条第 3 項及び寄附行為第 8 条第 2 項の規定に基づき、同学院の平成 25 年度における業務及び財産の状況について、理事会に出席するほか、理事長から学院運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類（財産目録・貸借対照表・収支計算書）等の調査を行いました。

その結果、同学院の業務及び財産の状況に関して、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類等は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人濱名学院の平成 26 年 3 月 31 日現在の財政状態及び同日を持って終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認め、ここに報告します。

以 上